

10. あなたの神、主が、あなたの先祖、アブラハム、イサク、ヤコブに誓われた地にあなたを導き入れ、あなたが建てなかった、大きくて、すばらしい町々、
11. あなたが満たさなかった、すべての良い物が満ちた家々、あなたが掘らなかった掘り井戸、あなたが植えなかったぶどう畑とオリーブ畑、これらをあなたに与え、あなたが食べて、満ち足りるとき、
12. あなたは気をつけて、あなたをエジプトの地、奴隷の家から連れ出された主を忘れないようにしなさい。
13. あなたの神、主を恐れなければならない。主に仕えなければならない。御名によって誓わなければならない。
14. ほかの神々、あなたがたの回りにいる国々の民の神に従ってはならない。
15. あなたのうちにおられるあなたの神、主は、ねたむ神であるから、あなたの神、主の怒りがあなたに向かって燃え上がり、主があなたを地の面から根絶やしにされないようにしなさい。
16. あなたがたがマサで試みたように、あなたがたの神、主を試みてはならない。
17. あなたがたの神、主の命令、主が命じられたさとしとおきてを忠実に守らなければならない。
18. 主が正しい、また良いと見られることをしなさい。そうすれば、あなたはしあわせになり、主があなたの先祖たちに誓われたあの良い地を所有することができる。
19. そうして、主が告げられたように、あなたの敵は、ことごとくあなたの前から追い払われる。
20. 後になって、あなたの息子があなたに尋ねて、「私たちの神、主が、あなたがたに命じられた、このさとしとおきてと定めとは、どういうことか。」と言うなら、
21. あなたは自分の息子にこう言いなさい。「私たちはエジプトでパロの奴隷であったが、主が力強い御手をもって、私たちをエジプトから連れ出された。
22. 主は私たちの目の前で、エジプトに対し、パロとその全家族に対して大きくてむごいしるしと不思議とを行ない、
23. 私たちをそこから連れ出された。それは私たちの先祖たちに誓われた地に、私たちをはいらせて、その地を私たちに与えるためであった。
24. それで、主は、私たちがこのすべてのおきてを行ない、私たちの神、主を恐れるように命じられた。それは、今日のように、いつまでも私たちがしあわせであり、生き残るためである。
25. 私たちの神、主が命じられたように、御前でこのすべての命令を守り行なうことは、私たちの義となるのである。」

## 説教

「聞け、イスラエル」と命じ、「我らの神、主は、唯一の主である」と宣言したモーセは、「心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。」と呼びかけます(5)。神の愛に応えて、あなたもまた「あなたの神、主を愛しなさい」と言うのです。頭や口先だけではなく、知性・感情・意思、すなわち全人格挙げて、全身全霊で「あなたの神、主を愛しなさい」と言うのです。

続く10-15節では、神の約束の地であるカナンに入って後に注意すべきことについて教えられます。「あなたの神、主が、あなたの先祖、アブラハム、イサク、ヤコブに誓われた地にあなたを導き入れ、あなたが建てなかった、大きくて、すばらしい町々、あなたが満たさなかった、すべての良い物が満ちた家々、あなたが掘らなかった掘り井戸、あなたが植えなかったぶどう畑とオリーブ畑、これらをあなたに与え、あなたが食べて、満ち足りるとき、あなたは気をつけて、あなたをエジプトの地、奴隷の家から連れ出された主を忘れないようにしなさい。」(10-12)

神の約束を信じて神に従って生きると、神の祝福を受けて約束の地であるカナンを相続することができます。そこは、神が先祖に誓われた地で、「すべての良い物が満ちた家々」、「大きくて、すばらしい町々」があり、「掘り井戸」で水は確保され、「ぶどう」や「オリーブ」といった農作物がたわわに実る、まさに理想郷です。神の民イスラエルは、食べただけ食べて「満ち足りた」生活を送ることができます。しかも、それはすべて、「あなたが建てなかった」「あなたが満たさなかった」「あなたが掘らなかった」「あなたが植えなかった」と何度も繰り返されるように、すべてイスラエルが自力で努力して獲得したのではなく、ただ神が恵みによって彼らに与えてくださった祝福でありました。神が、彼らを愛して、彼らに与えてくださった恵みの賜物が、カナンでの幸いな生活です。それは何より理想的な恵まれた生活でした。とは言え、今は今で、何も無い不毛の荒野を流浪する生活を送っていますが、それでもそうした厳しい環境にあって、神は天からの糧で彼らを養ってくださいました。でも、これから迎えようとしている約束の地カナンでの生活は、まさしく「天の雨」で潤っている、世の人が見ても羨むような、極めて豊かな生活なのです。荒野での神の守りと助けも十分に神の愛がそこにあって感謝なのに、これからはそれとは全く比べものにならないほど豊かで満ち足りた生活が待っています。

でも、それだけに、あらかじめ注意すべきことがあるとモーセは警告します。それは、すなわち「主を忘れる」という誘惑です。荒野に於ける何倍も神の祝福を受けるのですから、当然、これまで以上に、これまでの何倍も神に感謝するだろうと思うのですが、現実はそうはいきません。むしろその反対で、厳しい荒野の時代の何倍も神の祝福を受けていながら、神の恩を「忘れる」のです。

それで、モーセはこう警告します。「これらをあなたに与え、あなたが食べて、満ち足りるとき、あなたは気をつけて、あなたをエジプトの地、奴隷の家から連れ出された主を忘れないようにしなさい。」(11-12) 御恩は一生忘れてはならないのです。どんなに満ち足りた生活を送っても、満ち足りた生活を送ることで満足しきって、それを施して下さっている「主を忘れないように」しなければなりません。神の愛を受けて、その結果として、豊かに満ち足りて生活できているのです。神の愛が無ければ、イスラエルは惨めな「奴隷」でした。でも、そこから神は解放して「連れ出し」てくださったのです。これが彼らの原点です。「奴隷の家から連れ出された」神の恵みは一生忘れずにはならないものです。むしろ、毎主日ごとに思い出し、いつも思い出しては感謝しなければなりません。そして、その恵みに応えて生きなければなりません。

それで、モーセはこう続けます。「あなたの神、主を恐れなければならない。主に仕えなければならない。御名によって誓わなければならない。」(13)

そして、こうも警告します。「ほかの神々、あなたがたの回りにいる国々の民の神に従ってはならない。」(14) カナン入植後、受ける恵みに心奪われ神を忘れ、近隣諸国の慣わしに影響され、彼らが拝んでいる異教の神々が豊穡をもたらしたと言わんばかりに、それらに「従ってはならない」と言うのです。そして、「ほかの神々、あなたがたの回りにいる国々の民の神」に従うなら、「ねたむ神」「主の怒りがあなたに向かって燃え上がり、主があなたを地の面から根絶やしにされる」と警告するのです(15)。「あなたがたがマサで試みたように、あなたがたの神、主を試みてはならない。」(16)「試みる」という言葉は「試験する、試す」の意味で、人間が神に条件を提示して、例えば「この岩から水を出してくれたら信じてやる」とか、「俺の言うことを聞いてくれたら従ってやる」といった、傲慢な態度のことです。そこには神への「恐れ」はありません。あるのは神を自分に従わせようとする人間の傲慢さです。

神が人に従うのではなく、人が神に従わなければなりません。神のことばは、従っても従わなくてもどうでもいいものではありません。神がひとたび命じるならば、人は、それに従うか、それとも逆らうかの選択を迫られます。従えば祝福がもたらされますが、そうでなければ呪いと滅びが容赦なくくださる、それが神のことばです。従うかどうか、あれこれ損得を計算している場合にはありません。「あなたがたの神、主の命令、主が命じられたさとしとおきてを忠実に守らなければならない。主が正しい、また良いと見られることをしなさい。そうすれば、あなたはしあわせになり、主があなたの先祖たちに誓われたあの良い地を所有することができる。」(17-18)

最後の20節以降では、子どもたちが「私たちの神、主が、あなたがたに命じられた、このさとしとおきてと定め

とは、どういうことか」と尋ねた時にどう答えるかをモーセは教えます。神の恵みを忘れて近隣諸国の神々を拝むことなく、神の愛に応じて律法を忠実に守るよう教えられました。その律法は近隣諸国の神々の教えとは全く異なるものでした。それで、子どもたちは、異教の教えとは異なる神の律法が「どういうことか」と親にその意味を尋ねます。これにこう回答するようと言うのが 21 節-25 節です。7 節で「これをあなたの子どもたちによく教え込みなさい」と命じられましたが、子どもたちに徹底的に教育して後の時代に継承する律法にはどういう意味があるかを要約したのがこの箇所です。これによると、まず、自分たちは「エジプトでパロの奴隷であった」が、「主が力強い御手をもってエジプトから救い出し」、「先祖たちに誓われた地」であるカナンに「入らせて」「その地を与え」てくださったと自分たちの原点を教えます(21-23)。

リアルに、この歴史にあらわされた神の恵みを思い出すのです。そして、「今日のように、いつまでも私たちが幸せであり、生き残るため」に、「主は、私たちがこのすべてのおきてを行ない、私たちの神、主を恐れるように命じられた」と教えよと言います(24)。神の恵みを忘れることなく、いつまでも神を恐れてすばらしく最高に幸せに生きるため、神は律法をくださったと言うのです。「私たちの神、主が命じられたように、御前でこのすべての命令を守り行なうことは、私たちの義となるのである。」(25) 神を信じてみこころを行うことは「義」、すなわち人として本来あるべき姿だと言うのです。

世界にどんなに多くの神々があり、たとえ世界中の人々がそれらを拝んでいるとしても、生けるまことの神に聞き従うことこそ正しいことなのです。